

第4版 NR・サプリメントアドバイザー必携 訂正表

本書中、下記の誤りがございます。お詫びして訂正いたします。

頁	誤（下線部）	正
p.191 2 臨床検査 下から4行目	<u>ここでは、腫瘍マーカーのうち、よく用いられるものをあげた。これらを用いたが</u> <u>んの診断はできないことを留意すべきで</u> <u>あり、治療後評価などを含め、ひとつ</u> <u>の目安として使用される。</u>	この表は、ひとつの目安として使用し、
p.192-193 表 6-14 医療施設で用いられている検査項目	区分ごとに検査項目の追加および検査項目の目的（チェックできる病 気、検査の意味）を追加いたしました。（変更のない区分は、変更 なしと表記）（下表参照）	

表 6-14 医療施設で用いられている検査項目

区 分	検査項目	備 考
身体計測	身長	
	体重	
	肥満度	算出法 $\frac{\text{体重 [kg]} - (\text{身長 [cm]} - 100) \times 0.9}{\text{身長 [cm]} - 100} \times 100$ 基準値 -20%～+20%
	BMI	算出法 体重 [kg] ÷ 身長 [m] ÷ 身長 [m] 基準値 男性：19.0～23.7 kg/m ² 女性：18.6～22.9 kg/m ² 25 kg/m ² 以上を肥満とする。 健康障害あり、または内臓脂肪蓄積ありの場合を肥満症と呼ぶ。BMI35 kg/m ² 以上に高度肥満、高度肥満症が含まれる。
	腹囲	男性 85 cm、女性 90 cm以上はメタボリックシンドロームの可能性がある。
	内臓脂肪	CT・MRI 上で臍レベルで 100 cm ² 以上の場合はメタボリックシンドロームの可能性がある。

生理	変更なし	変更なし
X線・超音波	変更なし	変更なし
生化学	総たんぱく	肝機能・腎機能の低下や栄養状態の悪化により低下
	アルブミン	
	クレアチニン	腎機能低下によって上昇
	eGFR（推算糸球体濾過量）	血液で腎機能を調べるクレアチニン値に年齢・性別を計算し、体表面積 1.73m ² 当たりの 1 分間の腎臓血液濾過量を示す値。60mL/分/1.73m ² 未満が持続する場合、慢性の腎臓病が疑われる。*
	尿酸	尿酸は新陳代謝によってできる老廃物の一種。尿酸が高い状態を放置すると、痛風や腎機能障害を起こしたり、動脈硬化の危険因子となる。
	総コレステロール	
	HDL コレステロール**	善玉コレステロールとも呼ばれ、余分なコレステロールを血管壁から取り除く働きがある。HDL コレステロールの低下は、動脈硬化の危険因子となる。
	LDL コレステロール**	数値が高いと動脈硬化の危険因子となる。直接法とする（Friedewald の計算式による算出でも可）
	non-HDL コレステロール	数値が高いと動脈硬化の危険因子となる。 (中性脂肪 \geq 400mg/dL や食後採血時の指標)
	中性脂肪**	数値が高いと動脈硬化の危険因子となる。
	総ビリルビン	肝臓や胆道の障害により高値を示すが、体質で高値の場合もある。
	AST (GOT)	肝臓の働きを調べる代表的な検査で、肝臓障害などで増加する。AST は心筋梗塞でも増加する。ALT, LDH 低値はビタミン B 群不足も考えられる。
	ALT (GPT)	
	γ -GT (γ -GTP)	種々の肝臓障害により数値が増加するが、特にアルコールによる肝臓障害で高値を示す。
	ALP	肝臓・胆道などの病態で高値を示すことがある。ALP 低値は亜鉛不足も考えられる。
LDH	この数値が高値でも病気を特定できるものではない。 LDH, ALT 低値はビタミン B 群不足も考えられる。	
血糖（空腹時）	血液中のブドウ糖量。食後 1 時間の血糖値もチェックすることがある。	

	HbA1c	1～2 カ月にわたる血糖コントロールの目安
	アミラーゼ	主に膵臓や唾液腺から分泌される消化酵素
血液学	赤血球	貧血があると、赤血球数やヘモグロビンなどの数値が低下する。ヘマトクリットはある一定量の血液の中に赤血球がどのくらいの割合で含まれているかを調べる検査
	ヘモグロビン（血色素）	
	ヘマトクリット	
	白血球	主に炎症や感染症で増加する。
	MCV	平均赤血球容積
	MCH	平均赤血球色素量
	MCHC	平均赤血球血色素濃度
血清学 （免疫・感染症）	CRP	急性の炎症や感染症などで増加する。また hCRP（高感度 CRP）は、動脈硬化の目安にもなる。
	RF	関節リウマチなどで高値となる場合があるが、健康な人でも高めの数値の場合がある。最近では、関節リウマチの診断に抗 CCP 抗体（環状シトルリン化ペプチド抗体）が用いられる。
	HA 抗体	A 型肝炎ウイルスの抗体を調べる検査
	HBs 抗原	B 型肝炎ウイルスの抗原を調べる検査。HBs 抗原が陽性でも肝炎を起こすとは限らない。
	HBs 抗体	B 型肝炎ウイルスの抗体を調べる検査。過去に B 型肝炎ウイルスに感染したり、B 型肝炎予防接種を受けた場合に陽性となるが、HBs 抗原が陰性であれば心配ない。
	HCV 抗体	C 型肝炎ウイルスの抗体を調べる検査。HCV 抗体が陽性でも、C 型肝炎が発症するとは限らない。
	TPHA・RPR	梅毒の検査。梅毒でなくても陽性の場合がある。
尿	変更なし	変更なし
便	変更なし	変更なし
医療面接（問診）		変更なし
医師診察		変更なし
結果説明		変更なし
保健指導		変更なし
オプション検査項目		変更なし

* CKD 診療ガイドライン 2012/日本腎臓学会編（2012）東京医学社

**日本動脈硬化学会（編）：動脈硬化性疾患予防ガイドライン 2012 年版。日本動脈硬化学会，2012

頁	
<p>6 臨床栄養と臨床検査 p.447 練習問題, p.472 解答と解説</p>	<p>6-7 臨床検査に関する記述である。誤っているのはどれか</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 睡眠時無呼吸症候群は肥満と関連する。 2 アミラーゼは腎機能検査の1つである。 3 AST は肝臓の働きを調べる検査である。 4 ビリルビンは肝臓や胆道の障害で高値を示す。 5 LDL コレステロール 140mg/dL 以上で脂質異常症と診断する。 <p>解答：2</p> <p>解説 1. 睡眠時無呼吸症候群は肥満と関連する。 2. アミラーゼは膵臓や唾液腺の障害で増加する。 3. AST は ALT と共に肝臓の働きを調べる検査である。 4. ビリルビンは肝臓や胆道の障害で増加、体質で高値を示すこともある。 5. LDL コレステロール 140mg/dL 以上で脂質異常症である。</p> <p>6-8 臨床検査に関する記述である。正しいものの組合せはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> a eGFR は腎機能検査の1つである。 b 内臓脂肪の面積はメタボリックシンドロームの診断基準に入らない。 c HDL コレステロールの増加は動脈硬化の危険因子となる。 d アルブミンは肺機能の目安である。 e CRP は急性の炎症や感染症などで増加する。 <p>1 aとb 2 aとe 3 bとc 4 cとd 5 dとe</p> <p>解答：2</p> <p>解説 a eGFR は推算糸球体濾過量のこと。 b CT, MRI 上で臍レベルの内臓脂肪面積が 100 cm² 以上の時にはメタボリックシンドロームの可能性がある。 c HDL コレステロールの増加は特殊な場合を除き動脈硬化を抑える。 d アルブミンは栄養状態の目安である。 e CRP は白血球同様、急性の炎症や感染症などで増加する。</p>